

紙本墨書「中山尚慎書」保存修復報告

富山亜希子^{*1} 當間巧^{*2}

I. はじめに

本作品は一般財団法人沖縄美ら島財団所蔵の「尚慎書」である。平成28年6月3日から平成29年3月31日、石川堂で修復を行った。今回の修復では本紙の折れ、折れ山の亀裂擦れ、破損損傷箇所の修復後、所有者と協議し表装に使用されていた旧表装紙はすべて元使用し再び掛幅装に再装丁した。

なお、本作業は富山亜希子を監督職員とし、本紙修復ならびに本報告書の作成は當間巧が行った。

II. 作品の形状及び寸法

修復前後の法量は以下の通りです。

1. 本紙

- ①基底材 竹紙
- ②寸法 修復前 丈 115.3 cm 幅 52.7 cm
修復後 丈 116.1 cm 幅 52.9 cm
- ③本紙枚数 1枚
- ④画材 墨・膠
- ⑤本紙の特徴 黄丹色の彩色 銀切箔散らし装飾料紙

修復前 本紙全図



修復後 本紙全図



* 1 一般財団法人沖縄美ら島財団 首里城公園管理部 事業課 調査展示係 主査

* 2 石川堂 代表

2. 装丁

修復前

- ①装丁 挂幅装
- ②表具寸法 丈 190.9 cm 幅 72.5 cm
- ③表装形式 明朝表具
- ④裏打ち紙 3層
肌裏紙・楮紙
增裏紙・楮紙
總裏紙・楮紙
- ⑤表装紙 上下柱・白宣紙
明 朝・薄納戸宣紙
- ⑥軸首 朱唐草文様陶器軸
- ⑦収納箱 桐印籠箱

修復前 表具全図



修復後

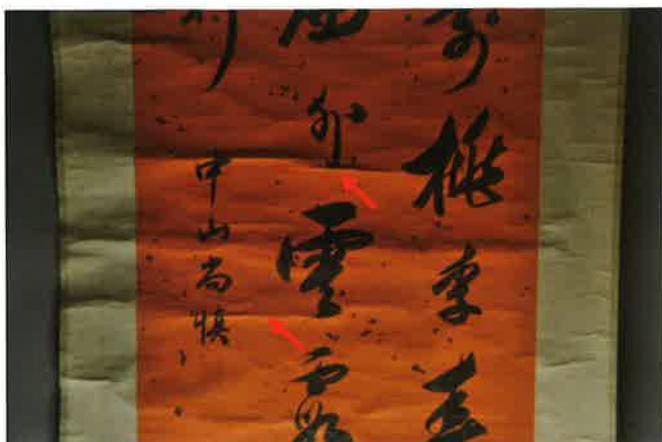
- ①装丁 挂幅装
- ②表具寸法 丈 192.4 cm 幅 72.5 cm
- ③表装形式 明朝表具
- ④裏打ち紙 4層
肌裏紙・楮紙（新調）
增裏紙・美栖紙（新調）
中裏紙・美栖紙（新調）
總裏紙・宇陀紙（新調）
- ⑤表装裂 上下柱・白宣紙（元使用）
明 朝・薄納戸宣紙（元使用）
- ⑥軸首 紫檀撥軸（新調）
- ⑦収納箱 桐太巻添軸桐印籠箱（新調）

修復後 表具全図



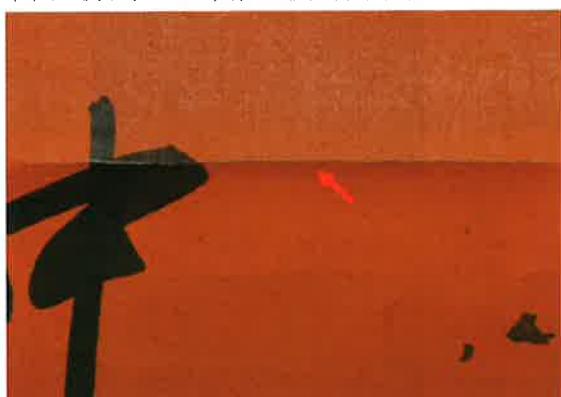
III. 修復前の損傷状況

1. 本紙には強い横折れが生じていた。



修復前 本紙中央部 強い折れが多数確認できる。

2. 本紙に折れ山の亀裂、破損損傷箇所が見られた。

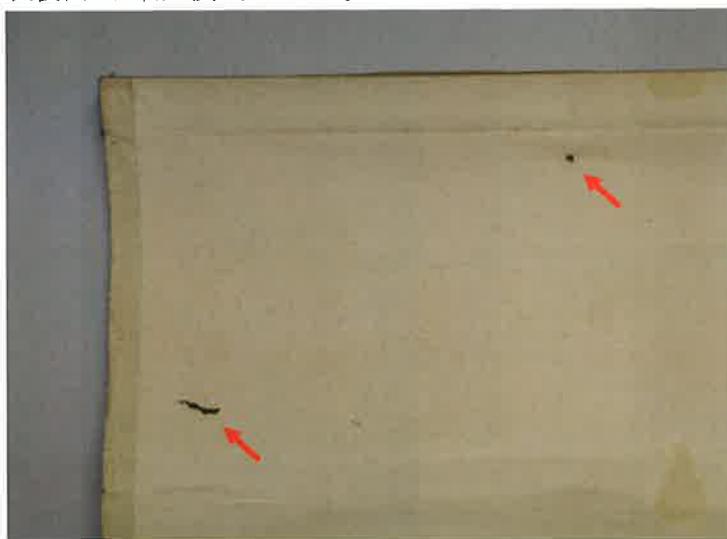


修復前 本紙中央部 折れ山の亀裂



修復前 本紙下部 破損損傷箇所

3. 表装紙に虫害欠損が見られた。



修復前 表具左上部 虫害欠損箇所

4. 表装紙全体的に汚れ、染みが生じていた。



修復前 表具上部 部分写真



修復前 表具右柱部分写真

IV. 修復方針及び概要

1. 実施の作業及び方針の決定・変更等は、首里城公園管理部の本件担当者と協議・監督の下進める。

2. 墨・朱印の剥落止めを行う。

墨の状態を調査した結果、墨文字の状態は良好であった。剥落止めによる過度な膠投与は、墨又は料紙の硬化を招く結果となる為、今回の修復では剥落止めは行わない事とした。

3. 表装紙を元使用する。

表紙紙は、首里城公園管理部の本件担当者と協議した結果、クリーニング後元使用した。

4. 本紙、旧表装紙のクリーニング汚れの除去作業を行う。

本紙全体と表装紙を加湿し、水分に汚れ等が溶け出した後、本紙表裏に吸水紙を置き、吸水紙に染み・汚れを移し除去した。

5. 本紙の欠失、破損箇所に適する補修紙で縫いを施す。

補修紙は、高知県立紙産業技術センターの本紙繊維組成試験結果を基に「たけ紙」を選定した、使用に当たっては天然染料矢車・墨で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用いた。

6. 本紙の折れが生じている箇所、及び今後明らかに生ずると思われる箇所に、伝統的な修理方法である折れ伏せを入れる。

7. 軸首、鑓、八双、軸木、掛け紐等を新調する。

8. 桐太巻添軸桐印籠箱、白絹袱紗を新調する。

収納保存にあたっては太巻添軸に添えて巻き、折れ破損の要因を軽減した。

V. 修復工程

1. 修復前に写真撮影を行い、本紙の状態を調査した。

2. 裏打ち紙を除去し表具装を解体した。

右：修復中 裏打ち紙除去作業

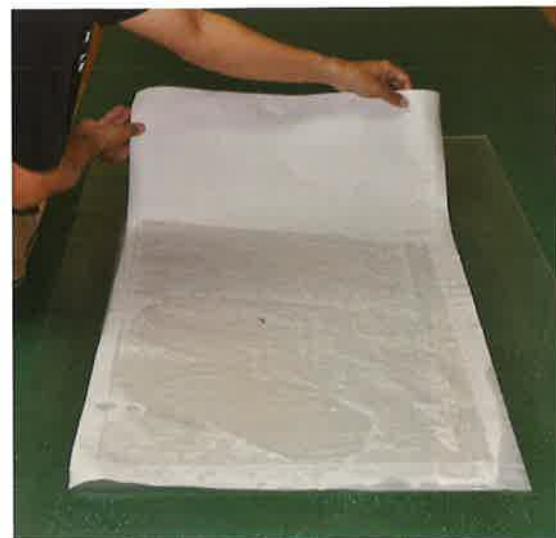


3. 濾過水を用い本紙表面に表打ちを施し、透過台に張り込み裏面より旧肌裏紙を捲り取った。



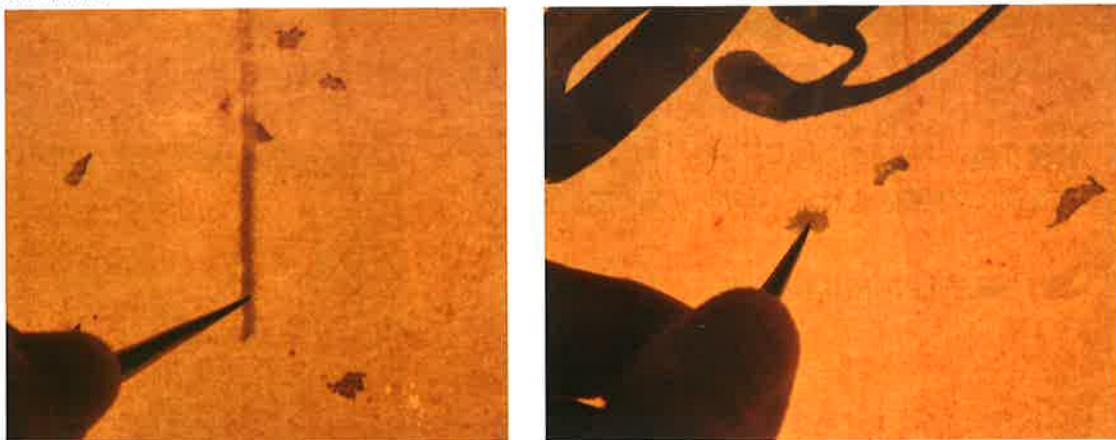
右：修復中 旧肌裏紙除去作業

4. 本紙、旧表装紙のクリーニング汚れの除去を試みた、作業は本紙を傷ない範囲にとどめた。



右：修復中 クリーニング作業

5. 本紙の亀裂、破損損傷箇所に補修（繕い）を施した。補修に使用する紙は風合い質感などの点から、古紙同質の竹紙を使用した。使用に当たっては天然染料矢車・墨で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用い、糊は小麦粉澱粉糊（新糊）を使用した。



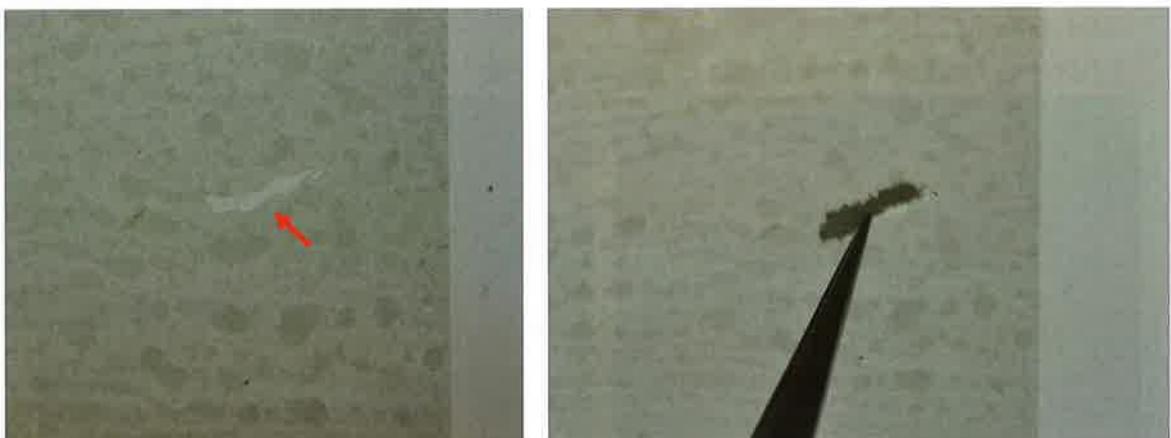
修復中 本紙補修作業

6. 新糊を用い、美濃紙（長谷川紙）で本紙の肌裏を打った。肌裏紙は天然染料（矢車）で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用いた。
糊は（新糊）を使用した。



右：修復中 本紙の肌裏打ち作業

7. 元使用の表装紙の補修（繕い）を施した。補修に使用する紙は風合い質感などの点から、古紙宣紙を使用した。使用に当たっては天然染料矢車・墨で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用い、糊は（新糊）を使用した。



修復中 表装裂の補修作業

8. 新糊を用い、美濃紙（長谷川紙）で表装紙の肌裏を打った。糊は（新糊）を使用した。



右：修復中 表装紙の肌裏打ち作業

9. 本紙、表装紙に美栖紙を使用し増裏を打った。糊は古糊を使用した。裏打ち後、仮張りを施した。



修復中 本紙の増裏打ち作業



修復中 表装紙の増裏打ち作業

10. 本紙の横折れが生じている箇所、今後明らかに生ずると思われる箇所に折れ伏せを施した。
折れ伏せ紙は美濃紙（長谷川紙）用い、糊は新糊を使用した。



右：修復中 折れ伏せ入れ作業

11. 本紙と表装紙を「明朝表具」に付け廻した。



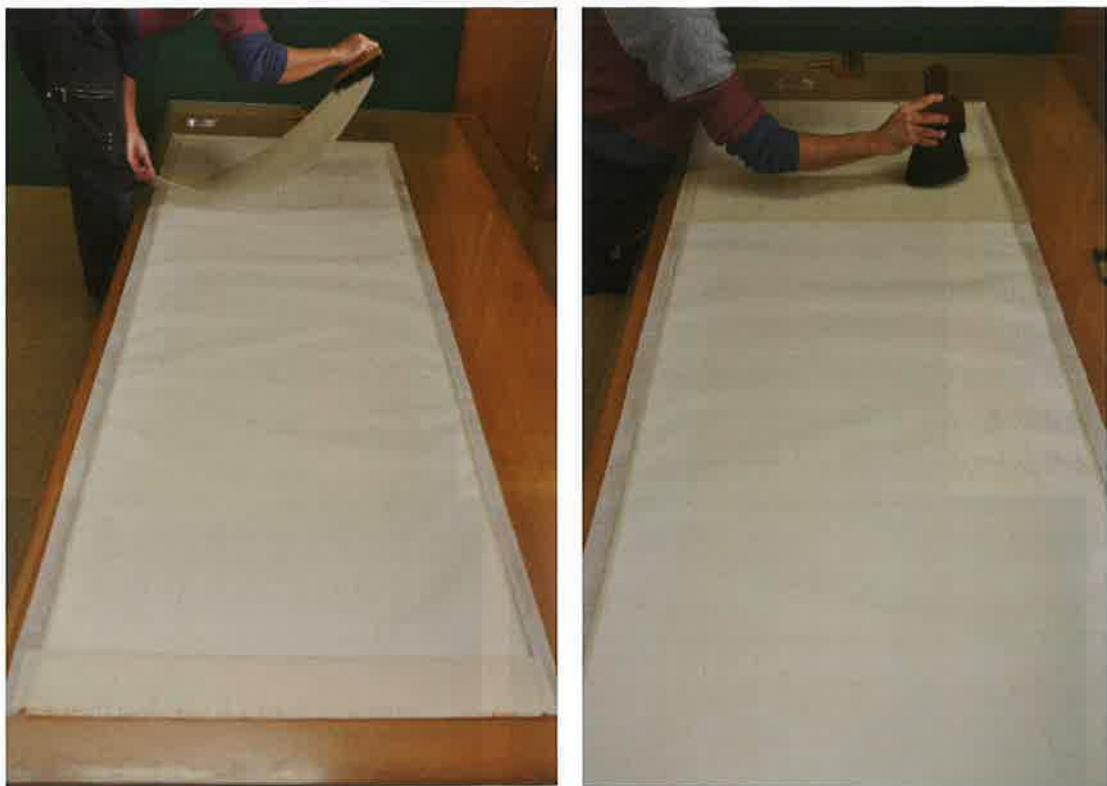
右：修復中 付回し作業

12. 美栖紙を使用し中裏を打った。糊は古糊を使用した。裏打ち後、仮張りを施した。



修復中 中裏を打ち作業

13. 古糊を用い宇陀紙で総裏を打った。裏打ち後、仮張りを施した。



修復中 総裏打ち作業

14. 鐔、軸首、八双、軸木、掛け紐等を新調した。

15. 十分に乾燥させた後、表具に仕上げた。

右：修復中 仕上げ作業



16. 桐太巻添軸桐印籠箱を新調し、紙帙を製作後、表具を白絹袱紗に包み印籠箱に収納した。

右：桐太巻添軸桐印籠箱



17. 修復後の写真撮影・報告書を作成した。

VI. 修復前後の状態

1. 表装紙

修復前はで上下・柱には白宣紙、明朝には薄納戸宣紙を配した明朝紙表具に仕立てられていた。

表装紙は、首里城公園管理部の本件担当者と協議した結果、再使用に耐え得る品質と元使用することによる作品との調和、時代的な風合を考慮し元使用した。



修復前 表具上部



修復後 表具上部

2. 軸首

修復前の軸首は「朱唐草文様陶器軸」が使用されていたが、片方の軸首は軸木からはずれて破損割れている状態であった。

修復後の軸首は、首里城公園管理部の本件担当者との協議、全体との調和を考慮した結果、「紫檀撥軸」中國産を新調し使用した。



修復前 朱唐草文様陶器軸

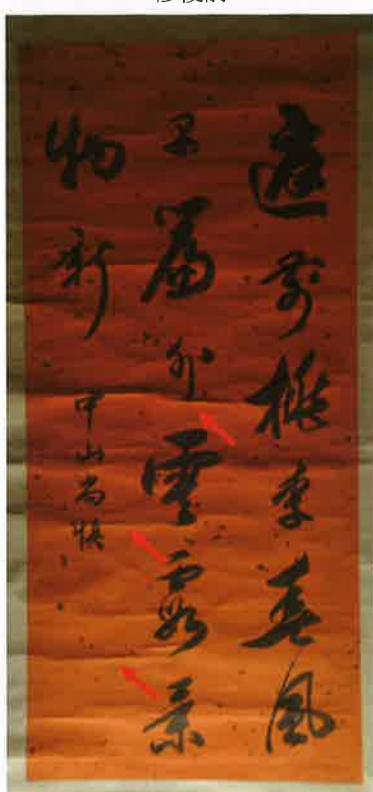


修復後 新調した紫檀撥軸

3. 本紙の折れ

斜光線を照射して、修復前後の状態を比較する。

修復前



強い折れが確認できる

修復後



折れが收まり平滑な本紙面

4. 本紙の亀裂、破損損傷箇所

本紙の亀裂、破損損傷箇所に補修（縫い）を施した。補修に使用する紙は風合い質感などの点から、古紙同質の竹紙を使用した。使用に当たっては天然染料矢車・墨で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用い、糊は小麦粉澱粉糊（新糊）を使用した。



修復前 本紙中央部 折れ山の亀裂



修復後 本紙中央部 折れ山の亀裂



修復前 本紙下部 破損損傷箇所



修復後 本紙下部 破損損傷箇所

5. 表装紙の虫害欠損

元使用の表装紙の補修（縫い）を施した。補修に使用する紙は風合い質感などの点から、古紙宣紙を使用した。使用に当たっては天然染料矢車・墨で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用い、糊は（新糊）を使用した。



修復前 表具左上部 虫害欠損箇所



修復後 表具左上部 虫害欠損箇所

6. 表装紙の染み・汚れ

表装紙を加湿し、水分に汚れ等が溶け出した後、本紙表裏に吸水紙を置き、吸水紙に染み・汚れを移し除去了した。



修復前 表具上部部分写真



修復後 表具上部部分写真



修復前 表具右柱部分写真



修復後 表具右柱部分写真

VII. 作品の技術分析

高知県立紙産業技術センターに依頼し、本紙の繊維組成試験（JIS P 8120）を行った。

詳細は以下の通りである。

1. 本紙の繊維分析

試験の結果「たけ」の繊維であると確認された。

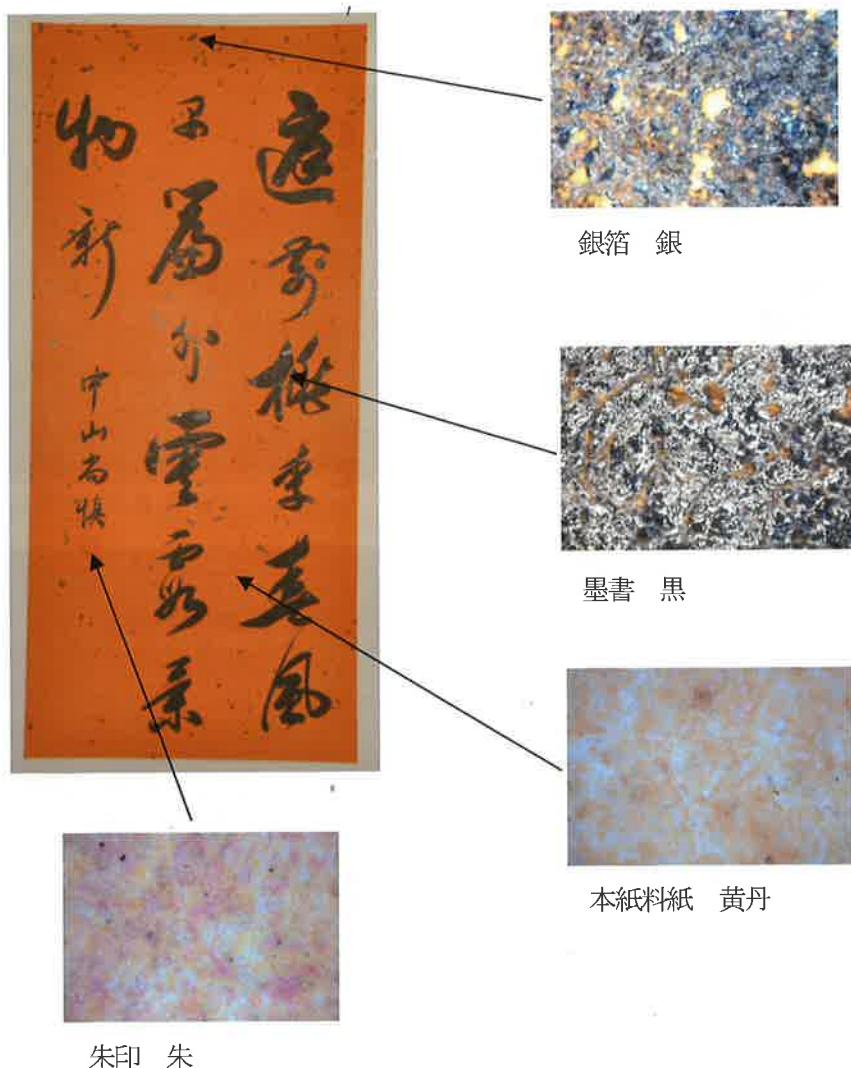
(別添 成績報告書 参照)



(高知県立紙産業技術センター撮影)

2. 本紙の顕微鏡撮影

本紙の顕微鏡撮影を行った。撮影は修復後、本紙の安定した状態で実施した。



VIII. 修復諸資材

1. 接着剤

①新糊（中村糊店・京都府京都市下京区）

原材料は小麦粉澱粉。水によく沈殿させ煮出した後、糊化したものを使用する。
肌裏打ち・折れ伏せ入れ等各所に使用。



②古糊

原材料は小麦粉澱粉。新糊を瓶に入れ5年程鍾乳洞にて保存したものを使用した。新糊に比べ接着力は劣るが、柔軟性を与える事が出来る。「打ち刷毛」という特殊な表具用刷毛を使用し裏打ちを行う。

増裏打ち・中裏打ち・総裏打ちに使用。



2. 染料

天然染料 矢車（中村長商店・京都府京都市中京区）
原材料はカバノキ科ハンノ木属夜叉五倍子の果実。
果実を水で煮出した後の染料溶液を使用する。
本紙肌裏紙、補修紙の染色に使用。



3. 紙

①美濃紙 長谷川紙（長谷川和紙工房・岐阜県美濃市）

原材料はクワ科の楮。中でも国内産那須楮白皮を使用した手漉き和紙。薄く強靭で長期の保存に耐える。
本紙、表装裂の肌裏紙・折れ伏せ紙に使用。

②美栖紙 白雪（昆布尊男製・奈良県吉野郡吉野町）奈良県指定伝統工芸品

原材料クワ科の楮。紙漉きの際、古粉（炭酸カルシウム）を添加する表具用手漉き和紙。薄く柔軟性があり、古糊と合わせて使用する。増裏紙、中裏紙に使用。

③宇陀紙 福虎（福西弘行製・奈良県吉野郡吉野町）奈良県指定伝統工芸品

原材料クワ科の楮。国内産楮を使用し、地元特産の「白土」を混入し伝統的製法で漉かれた表具用手漉き和紙。強靭で長期の保存に耐える。美栖紙に比べやや厚いが、風合い・質感共に柔らかさがある。古糊と合わせて使用する。

総裏紙、上巻き絹の裏打ち紙に使用。

IX. 作業期間

自・平成28年6月3日

至・平成29年3月31日

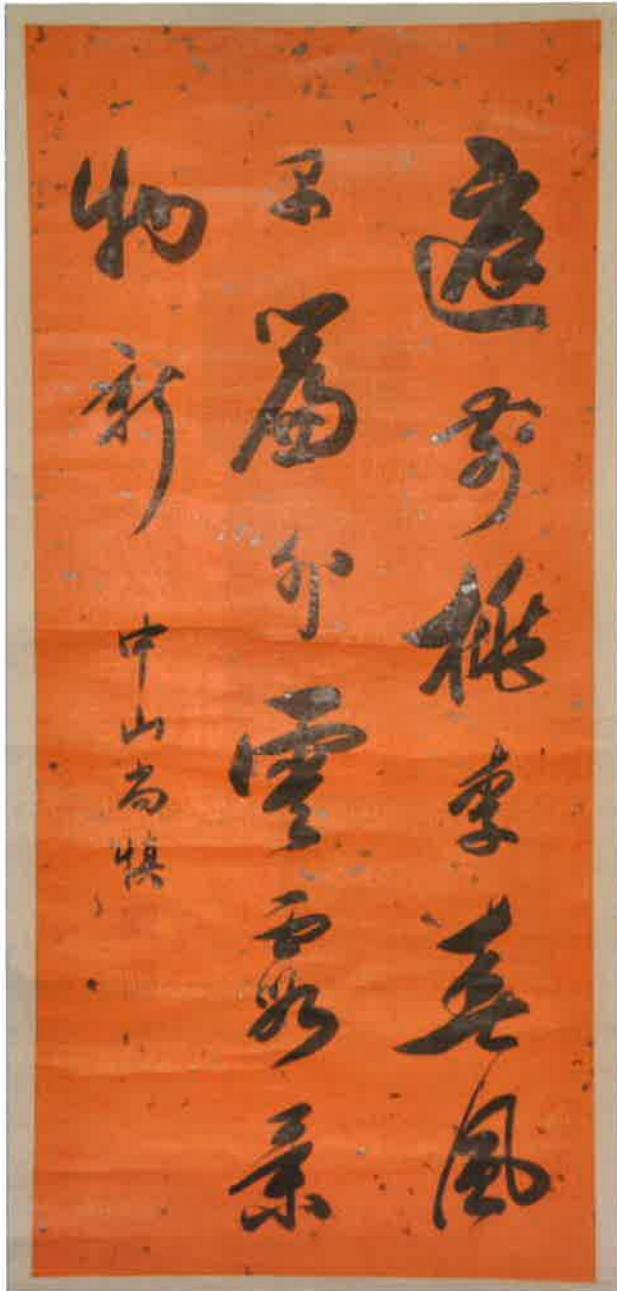
X. 作業場所

沖縄県うるま市石川2738-11-2F

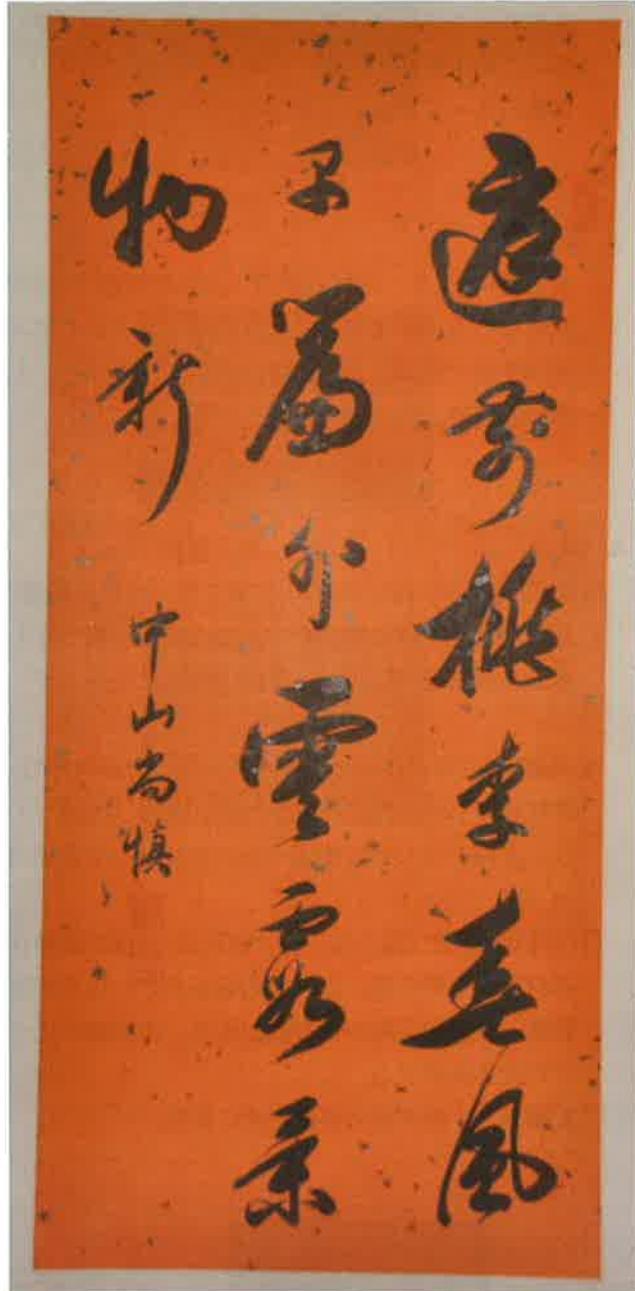
石川堂 當間巧

XI. 修復写真

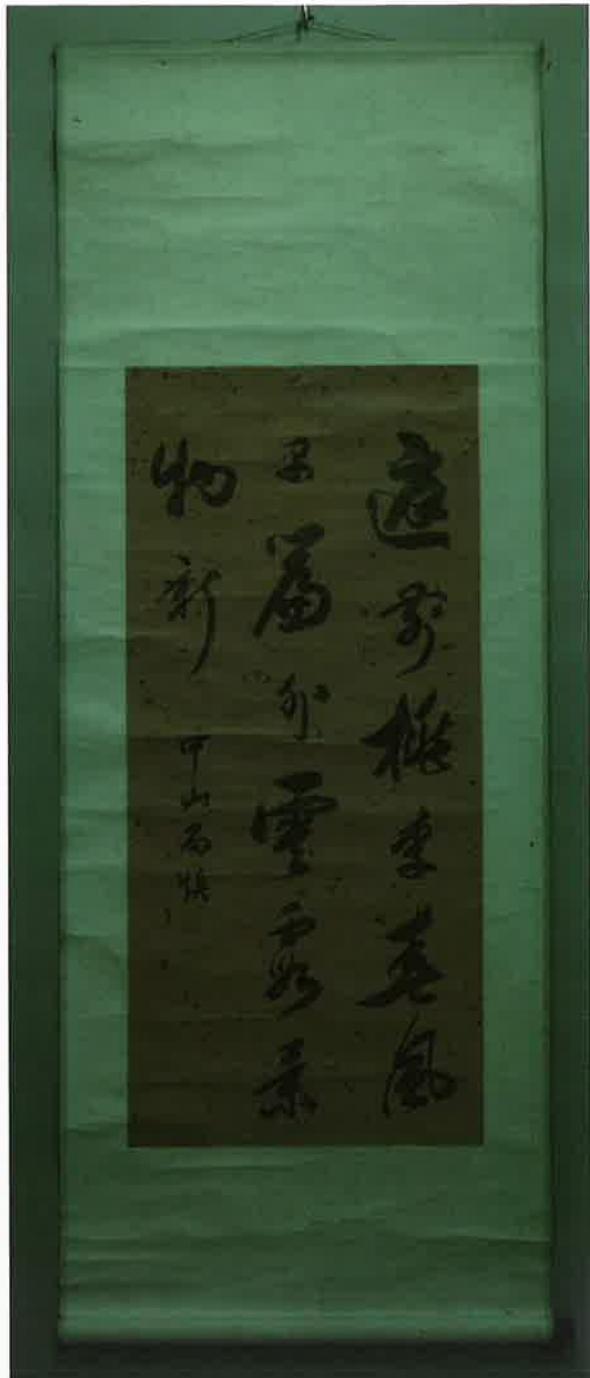
修復前 本紙全図



修復後 本紙全図



赤外線写真



修復前 表具全図 赤外線写真

紫外線蛍光写真

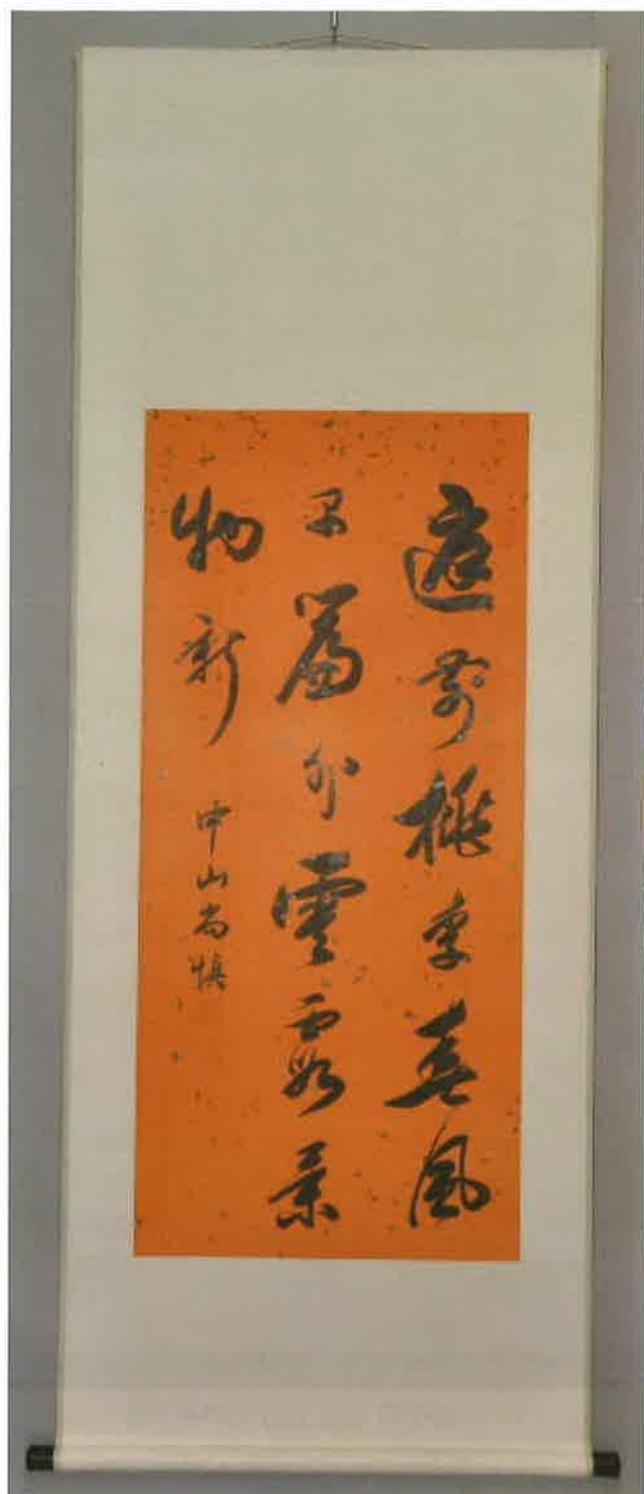


修復前 表具全図 紫外線蛍光写真

修復前 表具全図



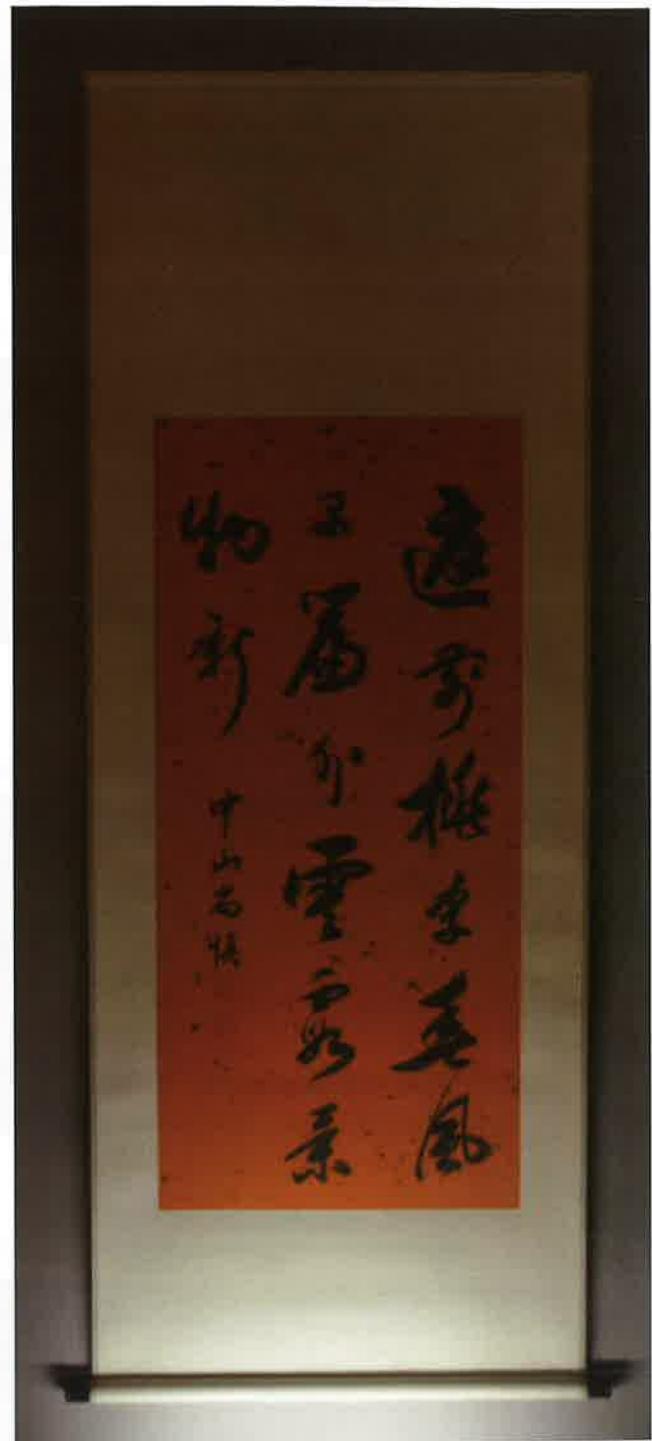
修復後 表具全図



斜光線写真



修復前 表具全図 斜光線写真



修復後 表具全図 斜光線写真

修復前 桐印籠箱



修復後 桐太巻添軸桐印籠箱



修復前 作品を巻いて収めた様子



修復後 桐太巻添軸芯に作品を巻いて収めた様子

